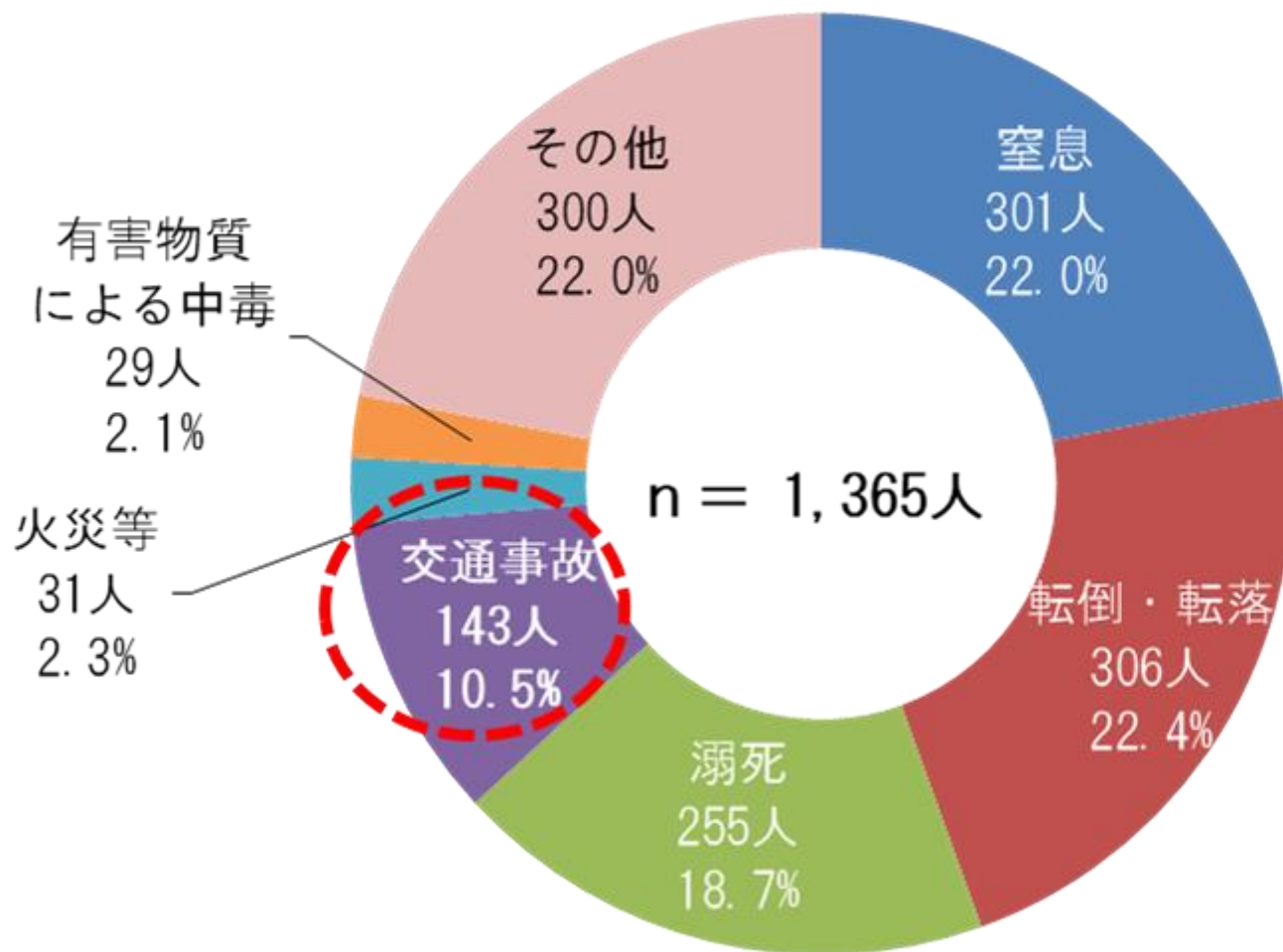


1 不慮の要因による死者の状況

不慮の要因による死者のうち、約12%が交通事故で亡くなっている。

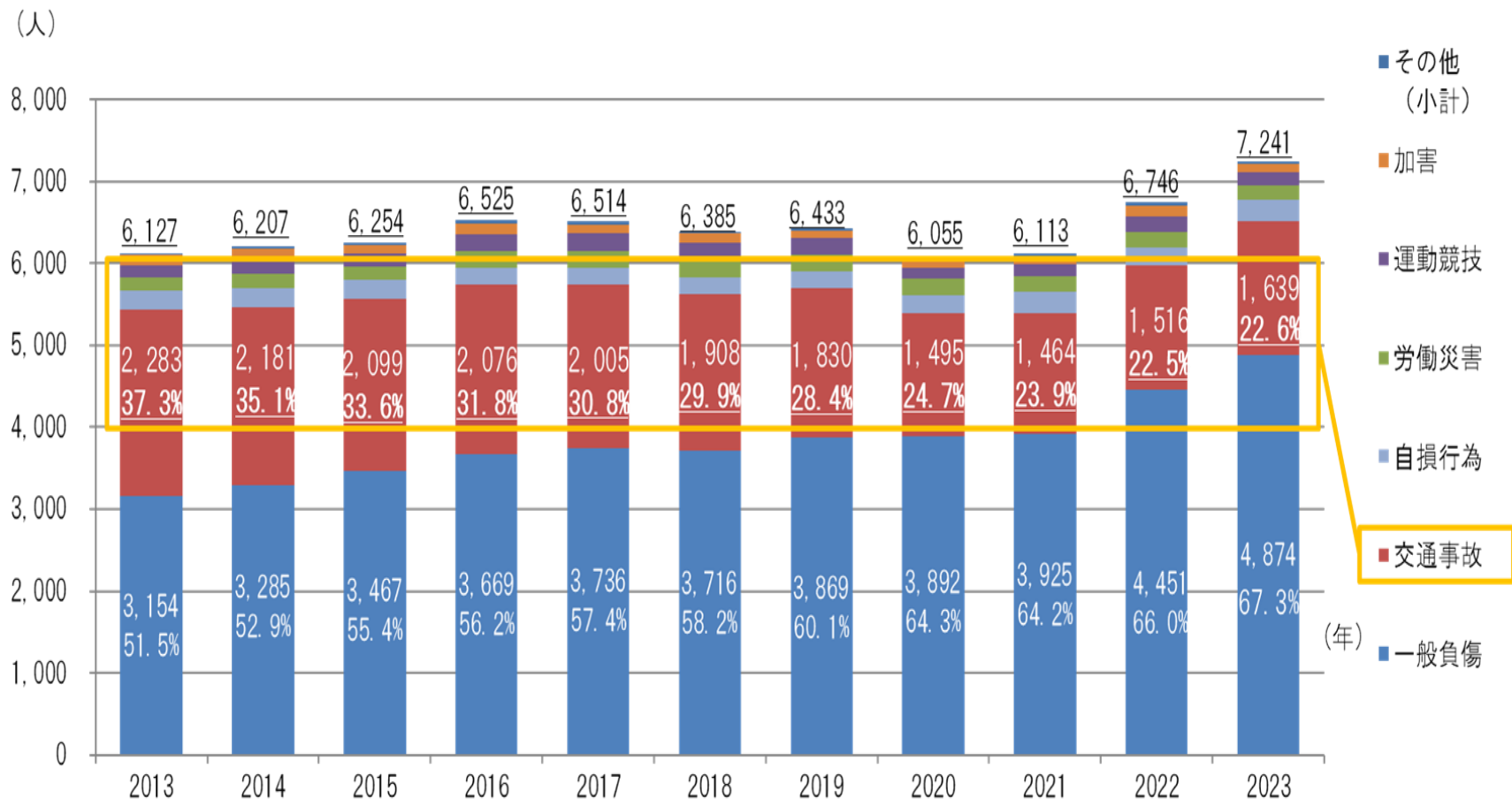
■ 不慮の事故による原因別死亡者の状況



2 事故別救急搬送の状況

救急搬送者のうち、2割から3割が交通事故に起因している。

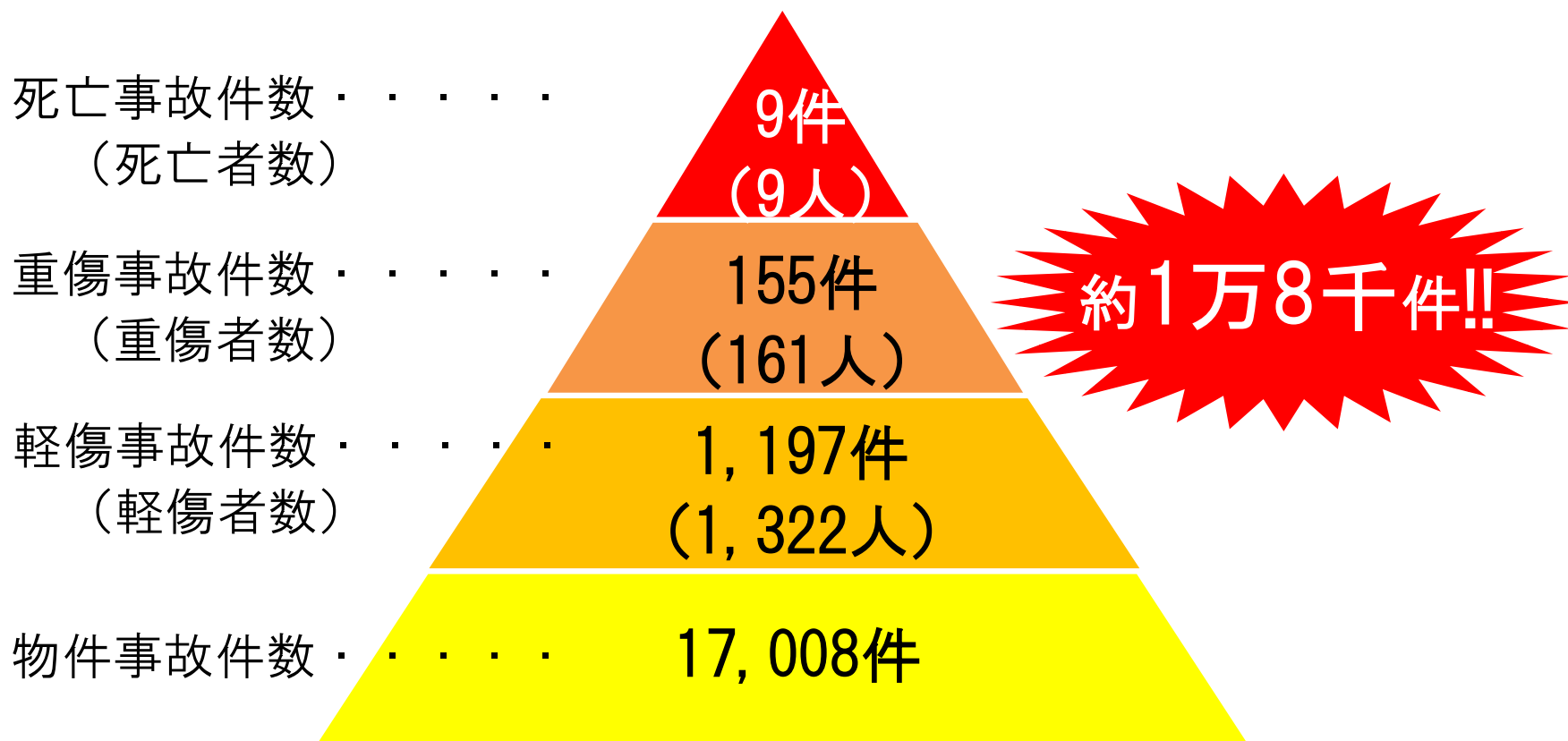
■ 事故別救急搬送の状況



3 交通事故発生件数（物損事故を含む）

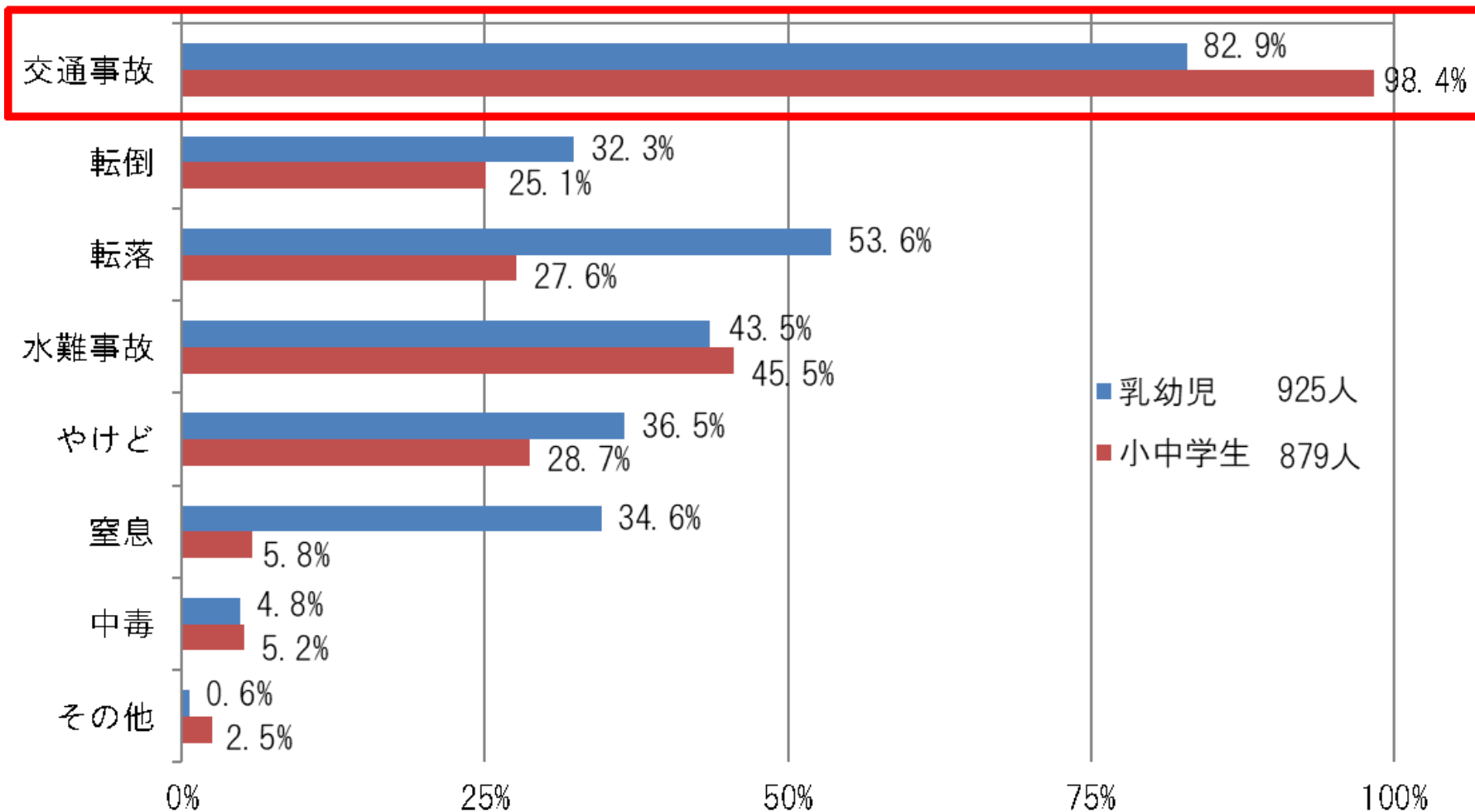
年間約1万8千件の交通事故が発生しており、約1,500人が死傷している。

■交通事故発生状況



4 子どもの保護者が懸念する事故の種類

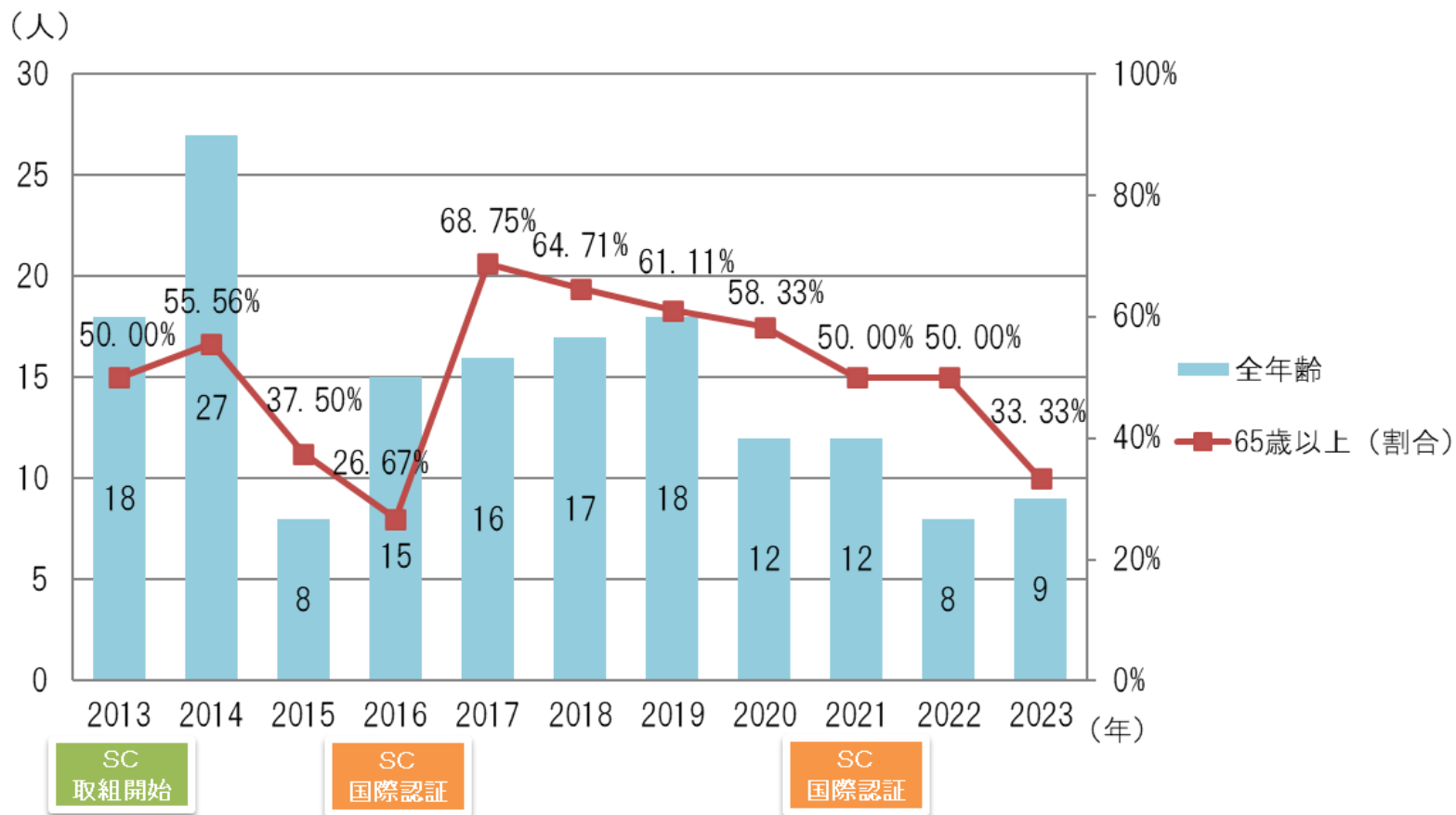
保護者の多くは、子どもの「交通事故」を懸念している。



5 交通事故発生状況（死者）の推移①

交通事故の死者は、2016年以降増加傾向にあったが、2020年から減少傾向に転じている。また、65歳以上の割合は2017年を境に減少傾向にあり、2023年は約3割まで減少している。

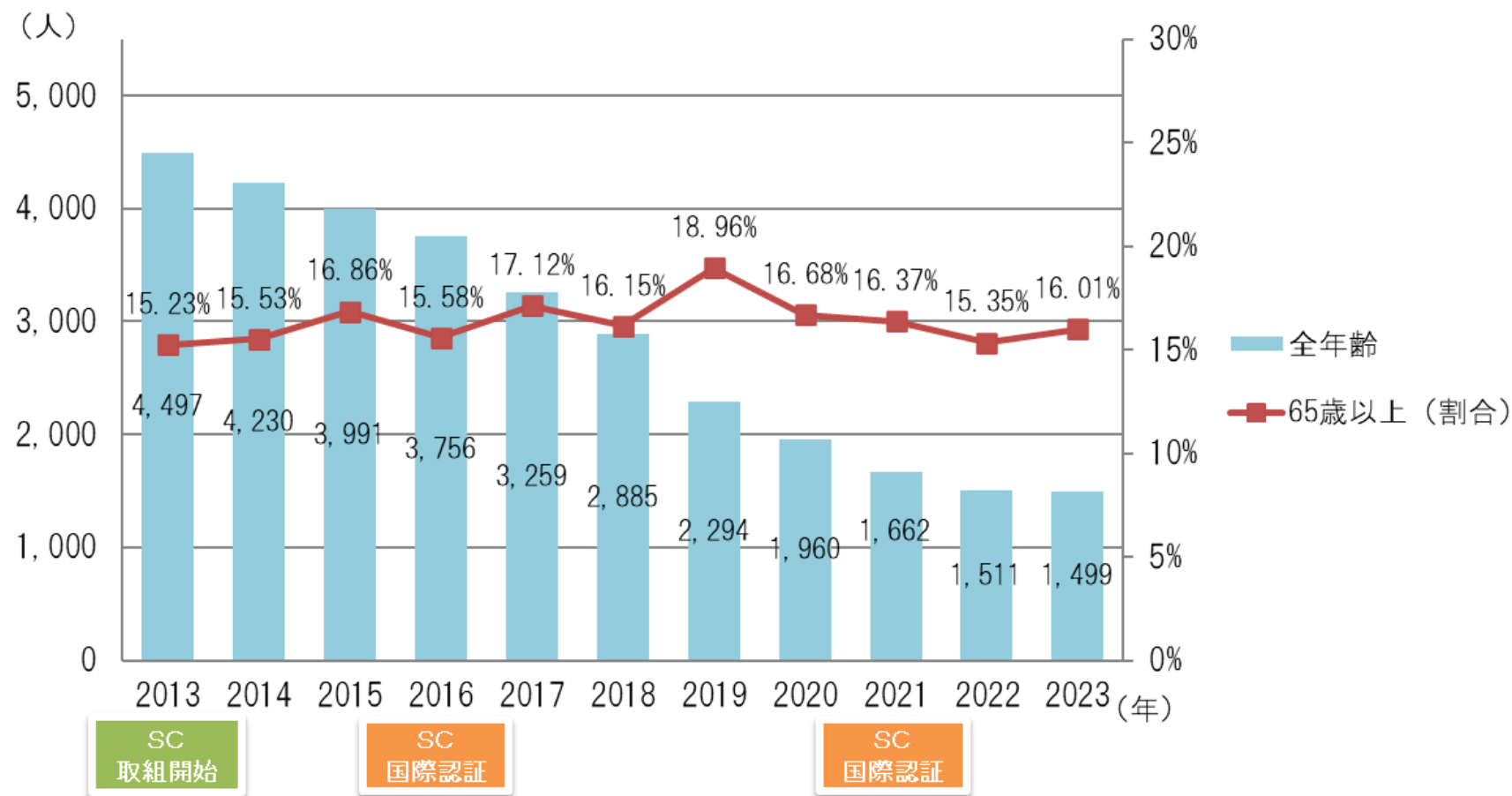
■ 交通事故死者の推移



5 交通事故発生状況（負傷者）の推移②

交通事故の負傷者は減少傾向にあり、65歳以上の割合は16%前後で推移している。

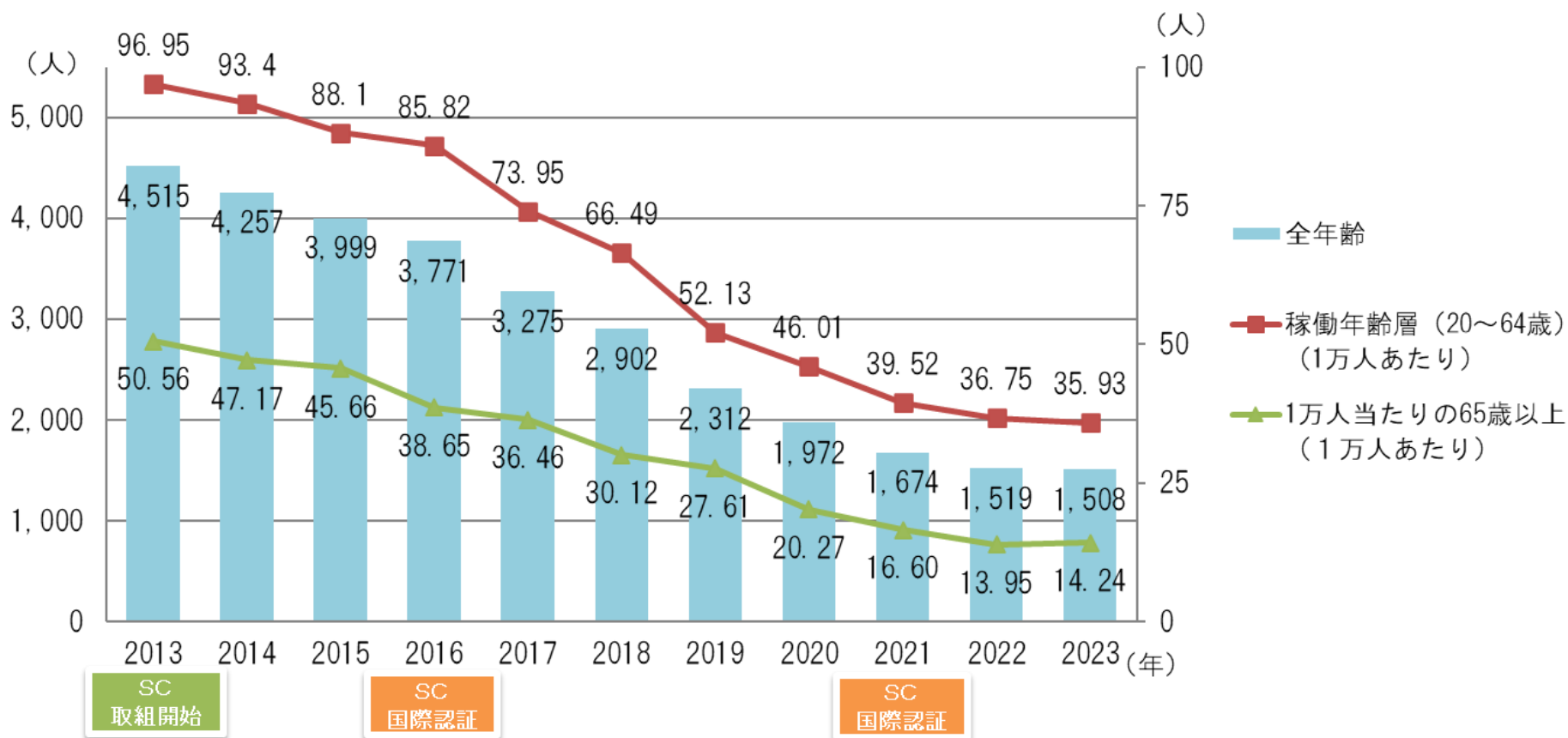
■ 交通事故負傷者の推移



5 交通事故発生状況（死傷者）の推移③

交通事故死傷者は年々減少し、1万人あたりの稼働年齢層及び65歳以上も年々減少傾向にある。

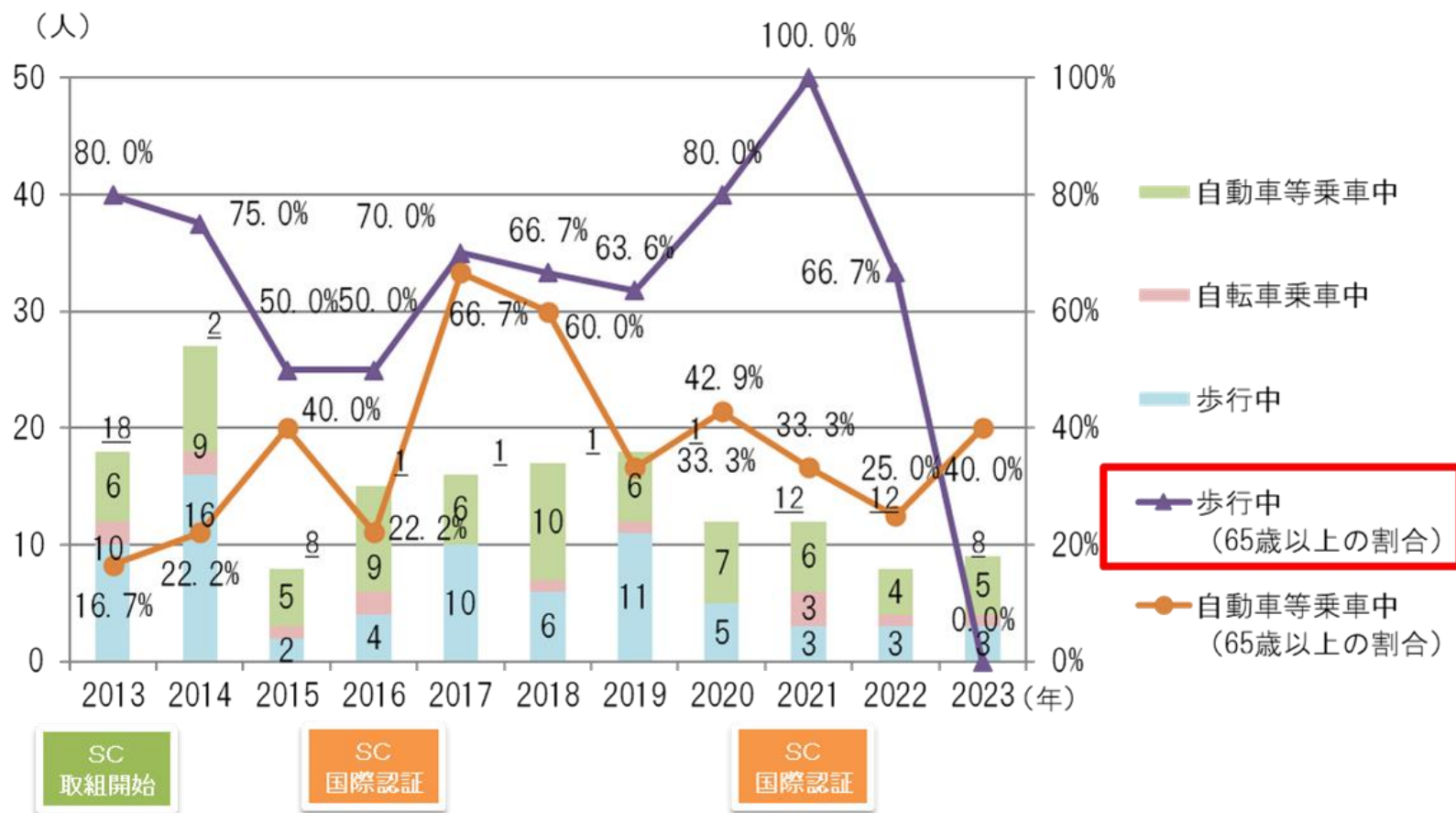
■ 交通事故死傷者の推移



6 交通事故状態別（死者）の発生状況①

交通事故状態別（死者）は自動車等乗車中及び歩行中が多く、2023年の自動車等乗車中の死者のうち、高齢者が約4割を占めている。

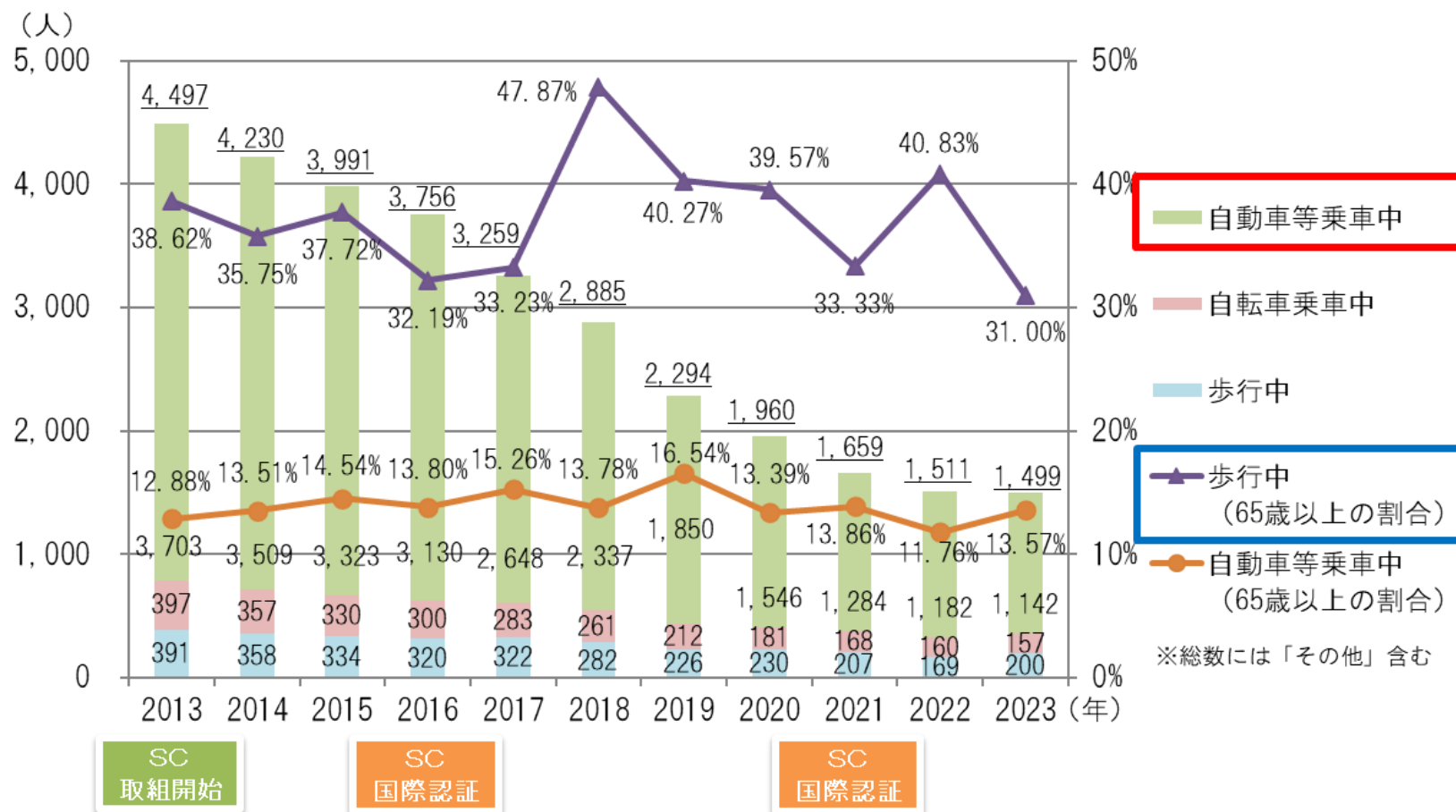
■交通事故死者（状態別）の推移



6 交通事故状態別（負傷者）の発生状況②

交通事故状態別（負傷者）では、自動車等乗車中が約8割で推移しており、2023年の歩行中の負傷者のうち高齢者が約3割を占めている。

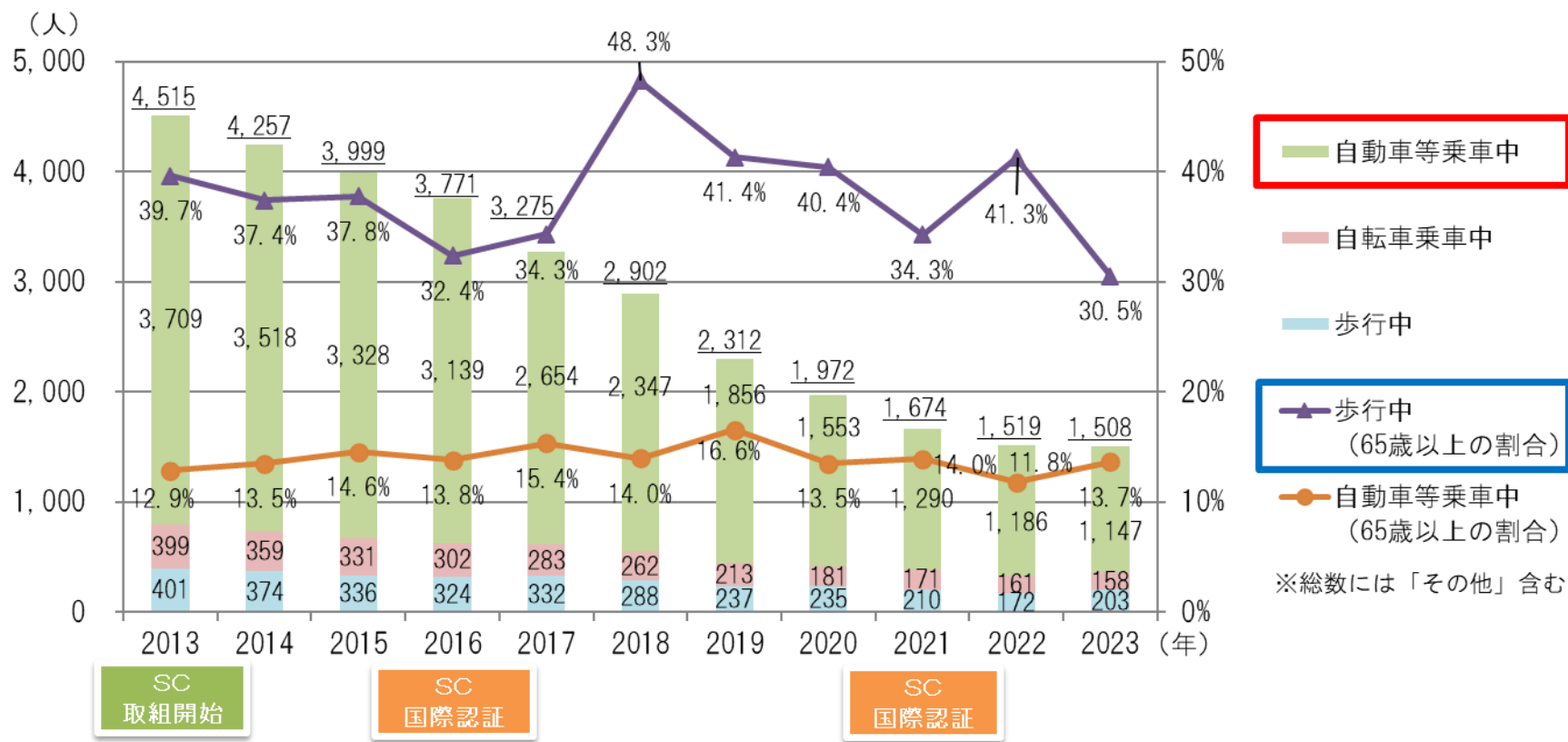
■交通事故負傷者（状態別）の推移



6 交通事故状態別（死傷者）の発生状況③

交通事故状態別（死傷者）では、自動車等乗車中が約8割で推移しており、2023年の歩行中の死傷者のうち高齢者が約3割を占めている。

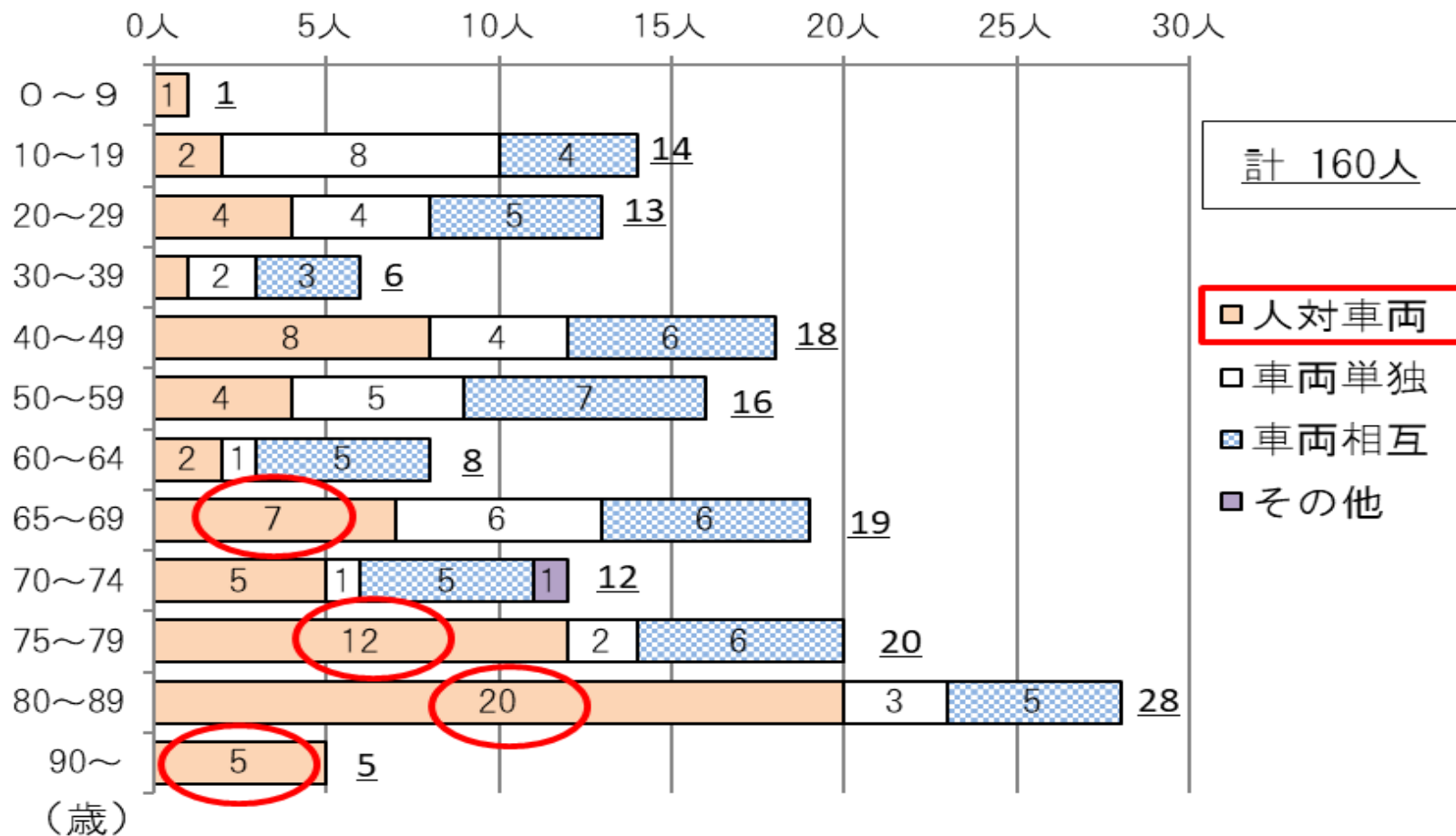
■交通事故死傷者（状態別）の推移



7 交通事故類型（死者）の発生状況①

交通事故類型（死者）は、65歳以上は人対車両が多くを占めている。

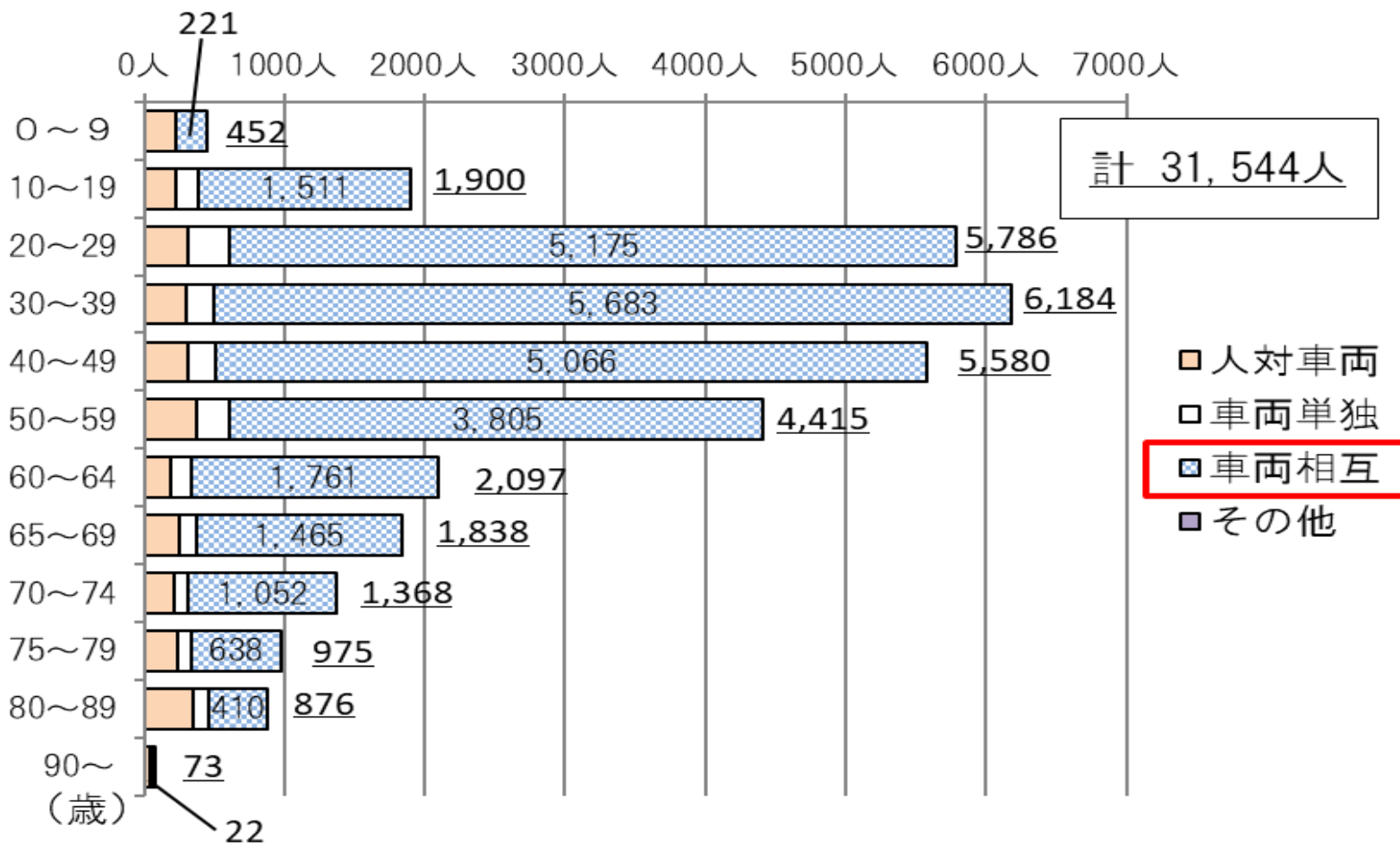
■ 年齢層別・事故類型別死者数



7 交通事故類型（負傷者）の発生状況②

交通事故類型（負傷者）は、全年齢層において、車両相互が多くを占めている。

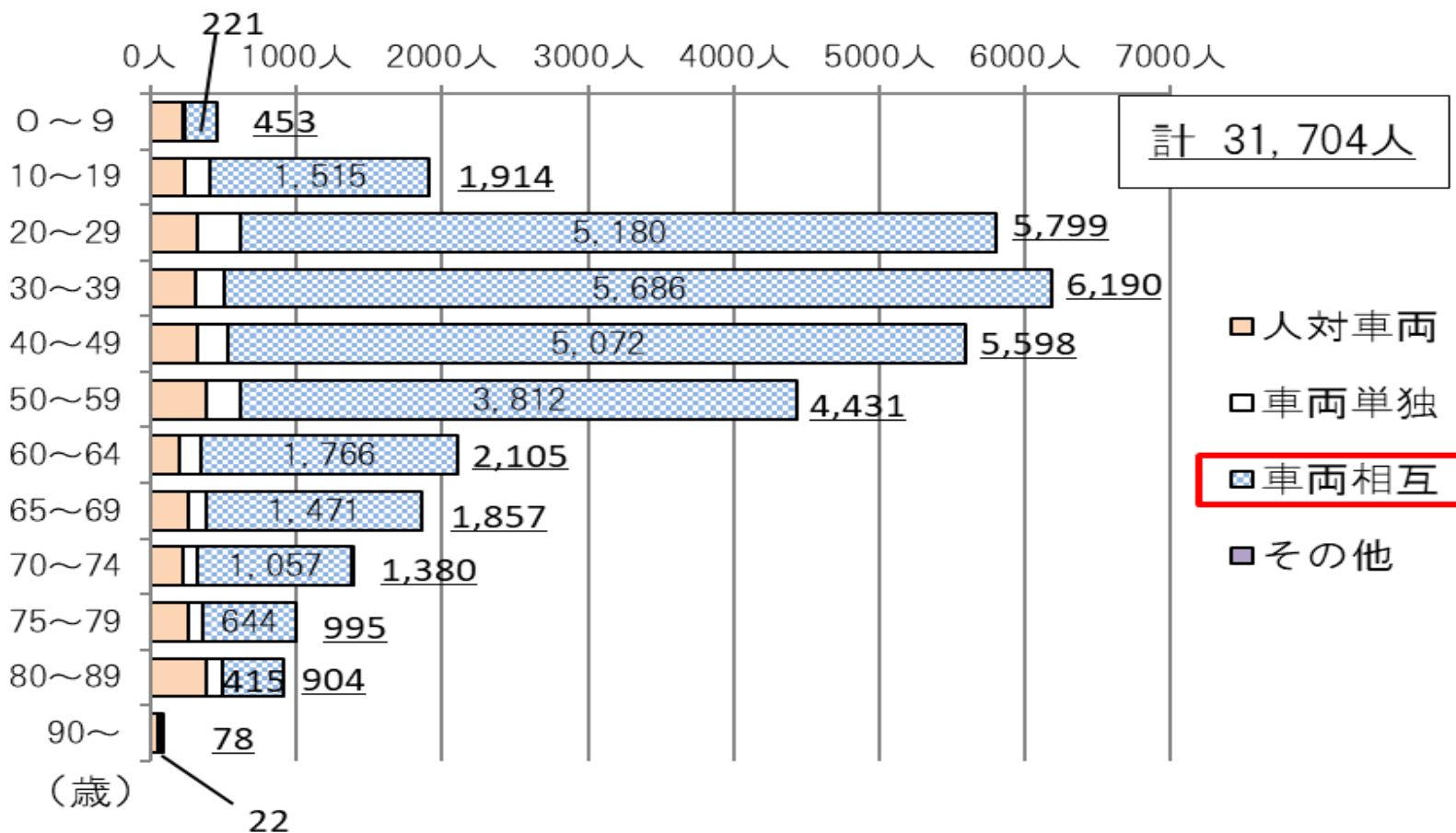
■ 年齢層別・事故類型別負者数



7 交通事故類型（死傷者）の発生状況③

交通事故類型（死傷者）は、全年齢層において、車両相互が多くを占めている。

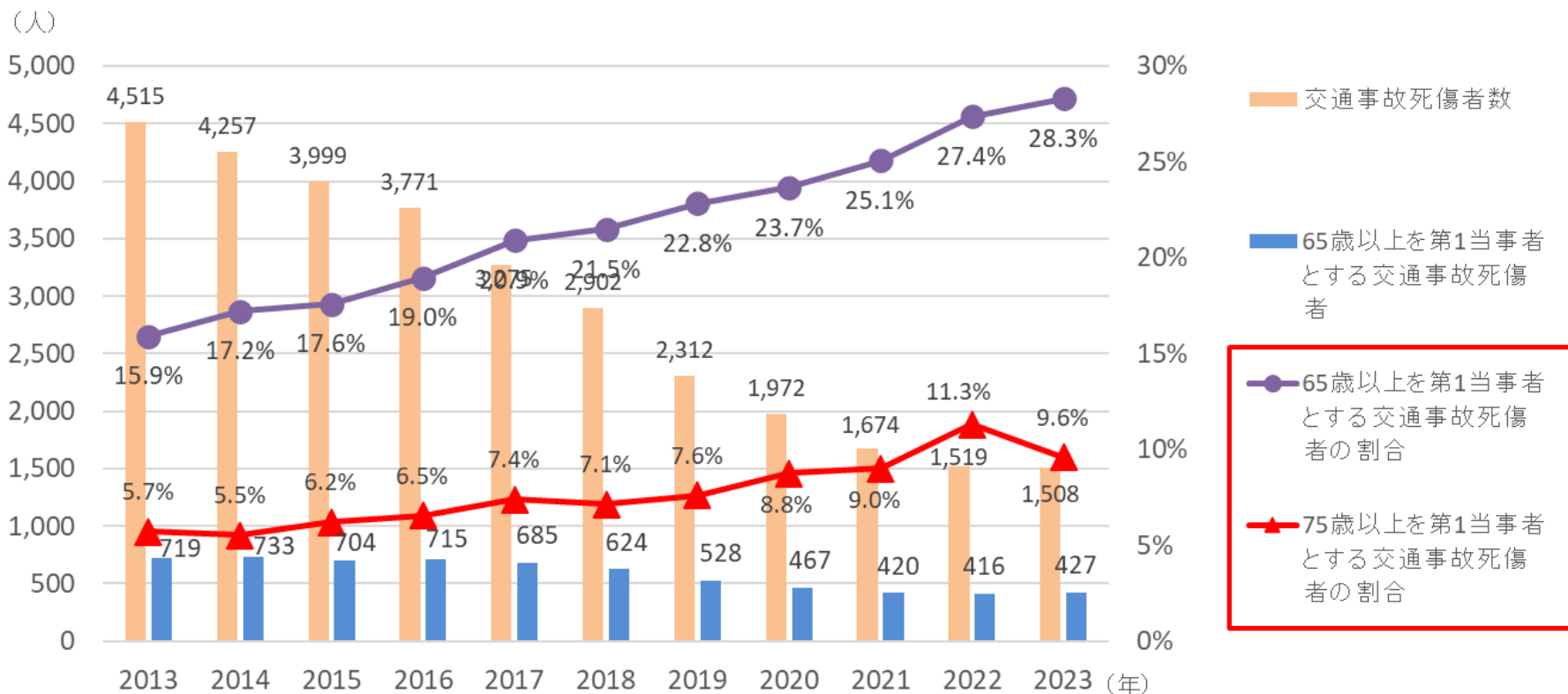
■ 年齢層別・事故類型別死傷者数



8 高齢運転者が第1当事者になった死傷者の状況

交通事故死傷者が年々減少するなか、65歳以上の高齢運転者が第1当事者となった死傷者数の割合は、年々増加している。

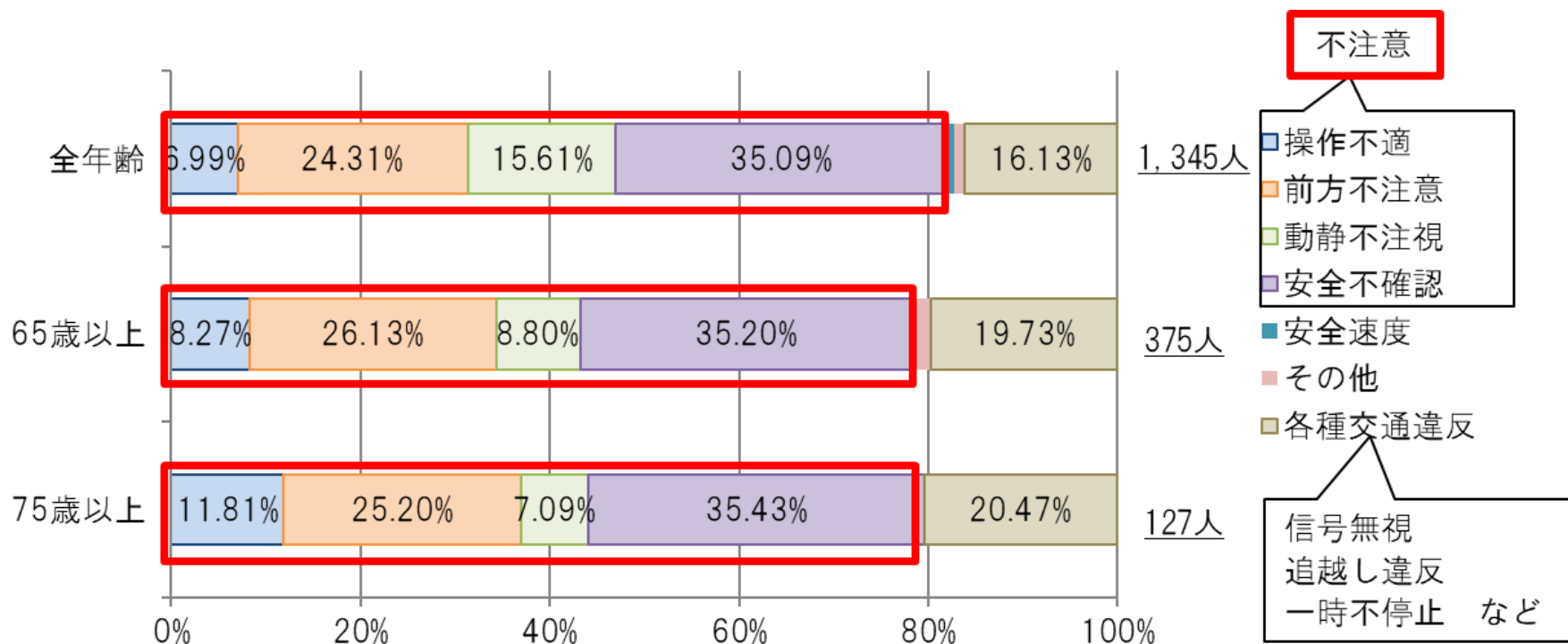
■ 高齢者運転者が第1当事者となった交通事故死傷者の推移



9 車両（軽車両を除く）運転者の事故原因

交通事故の原因は、運転者のちょっとした不注意が大部分を占めている

■運転者の事故原因

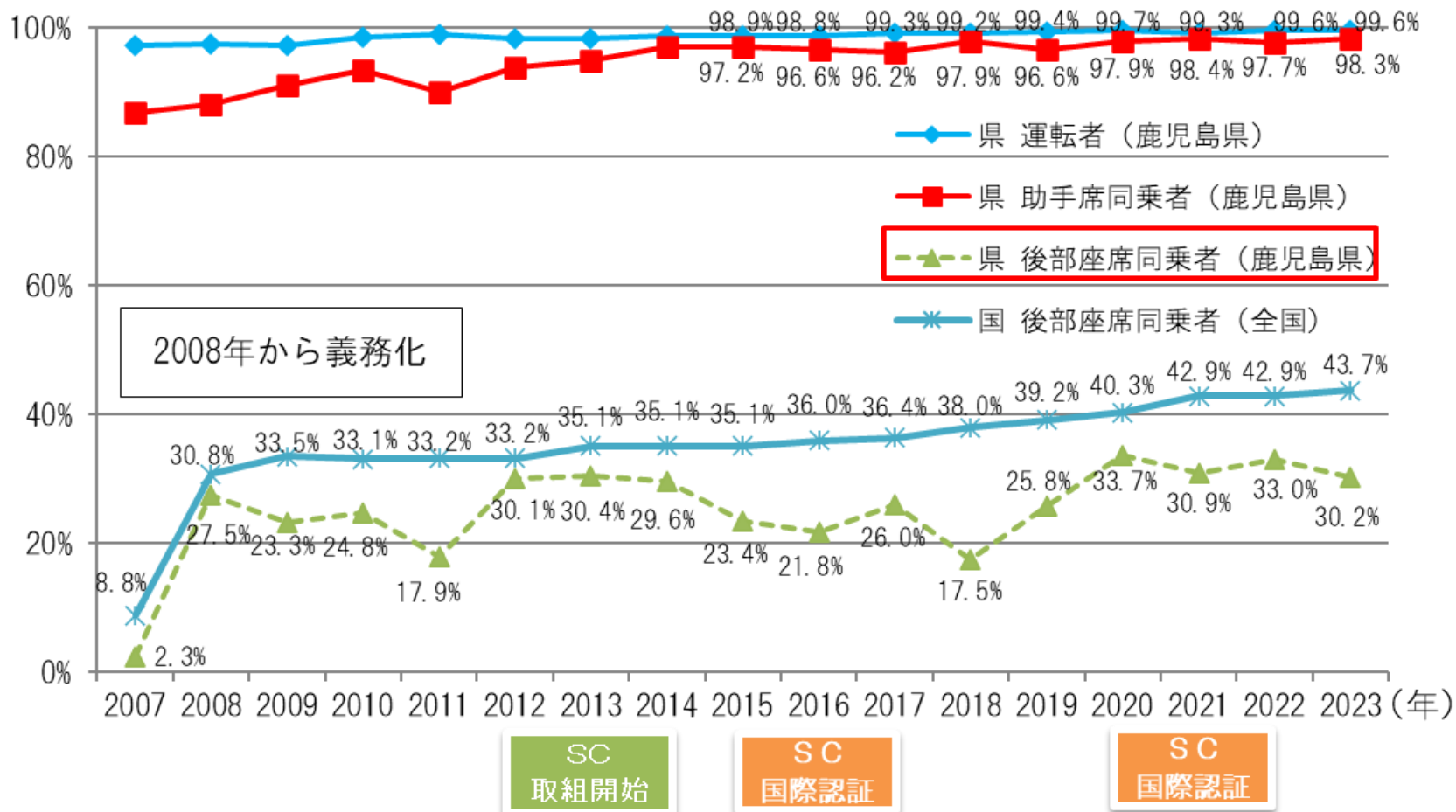


【出典】鹿児島県警察本部(交通企画課)調べ 【データ】市(高速道路を除く)、両性、全年齢ほか、2023年
※車両(軽車両を除く)・路面電車に原因(第1当事者のみ)

10 シートベルト着用率の推移

鹿児島県の後部座席シートベルト着用率は、全国に比べて低くなっている。

■シートベルト着用率の推移



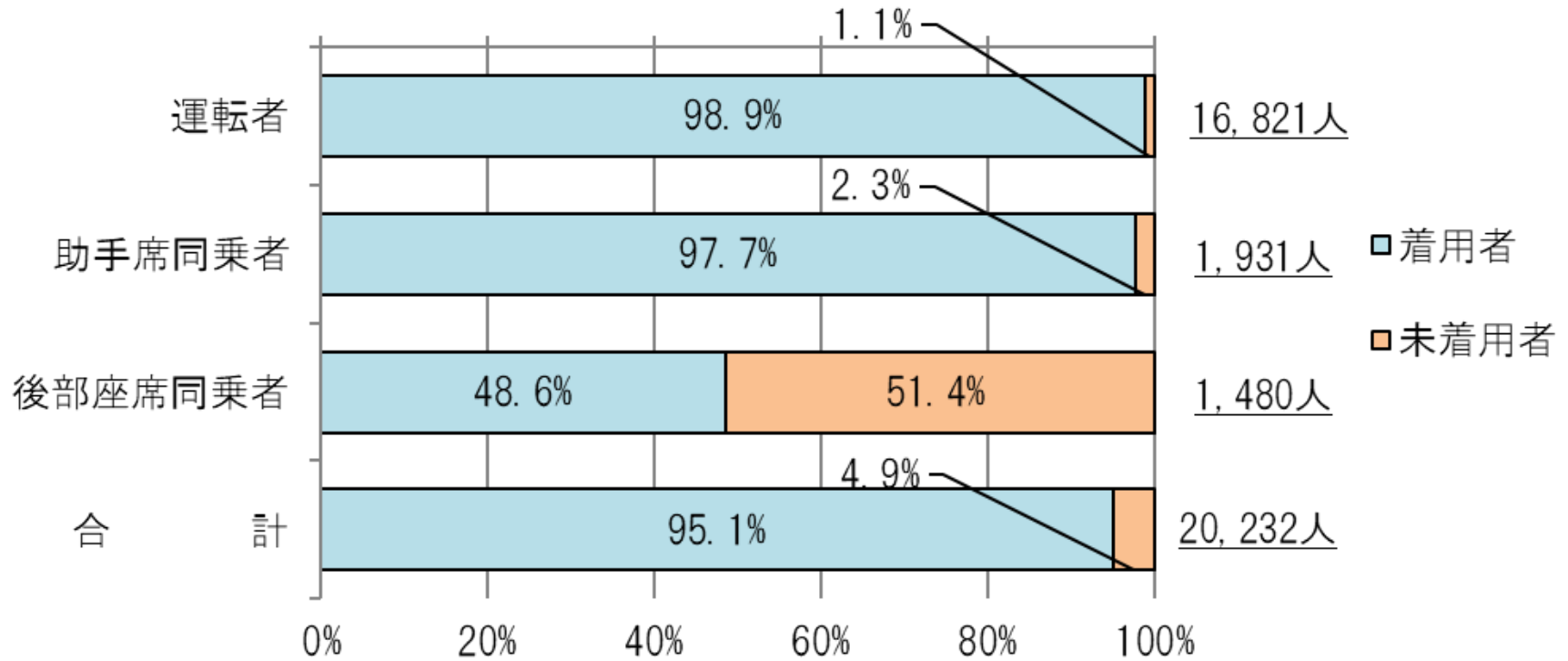
【出典】シートベルトの着用状況全国調査(警察庁、日本自動車連盟)

【データ】県・全国(一般道路のみ)、両性、全年齢、2007年～2023年

11 シートベルト未着用による交通事故死傷者数①

後部座席同乗者のうち、シートベルト未着用者の死傷率が非常に高くなっている。

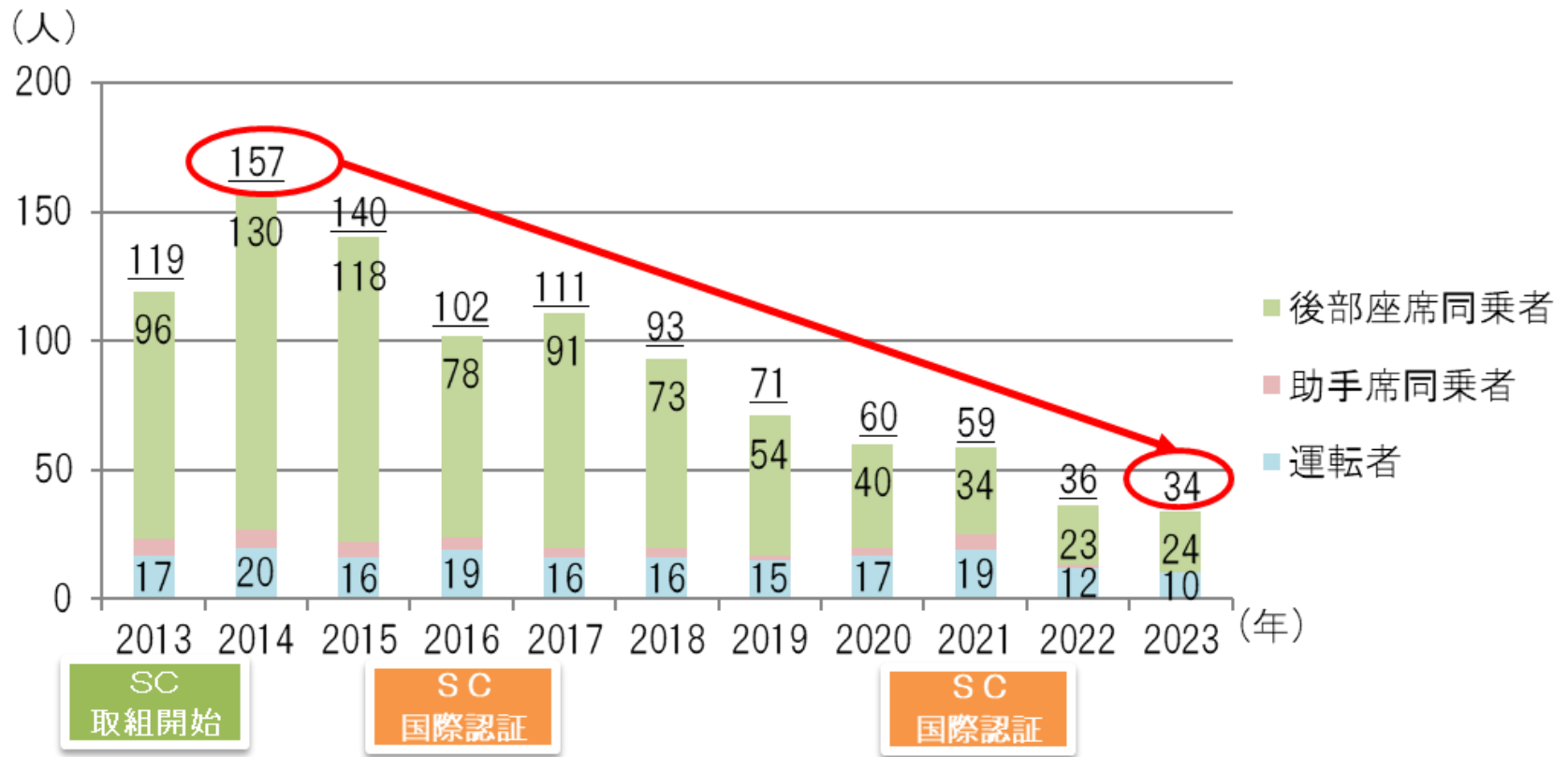
■シートベルト着用状況別の交通事故死傷者の割合



11 シートベルト未着用による交通事故死傷者数②

シートベルト未着用者による交通事故死傷者数は、2014年をピークに減少傾向にある。

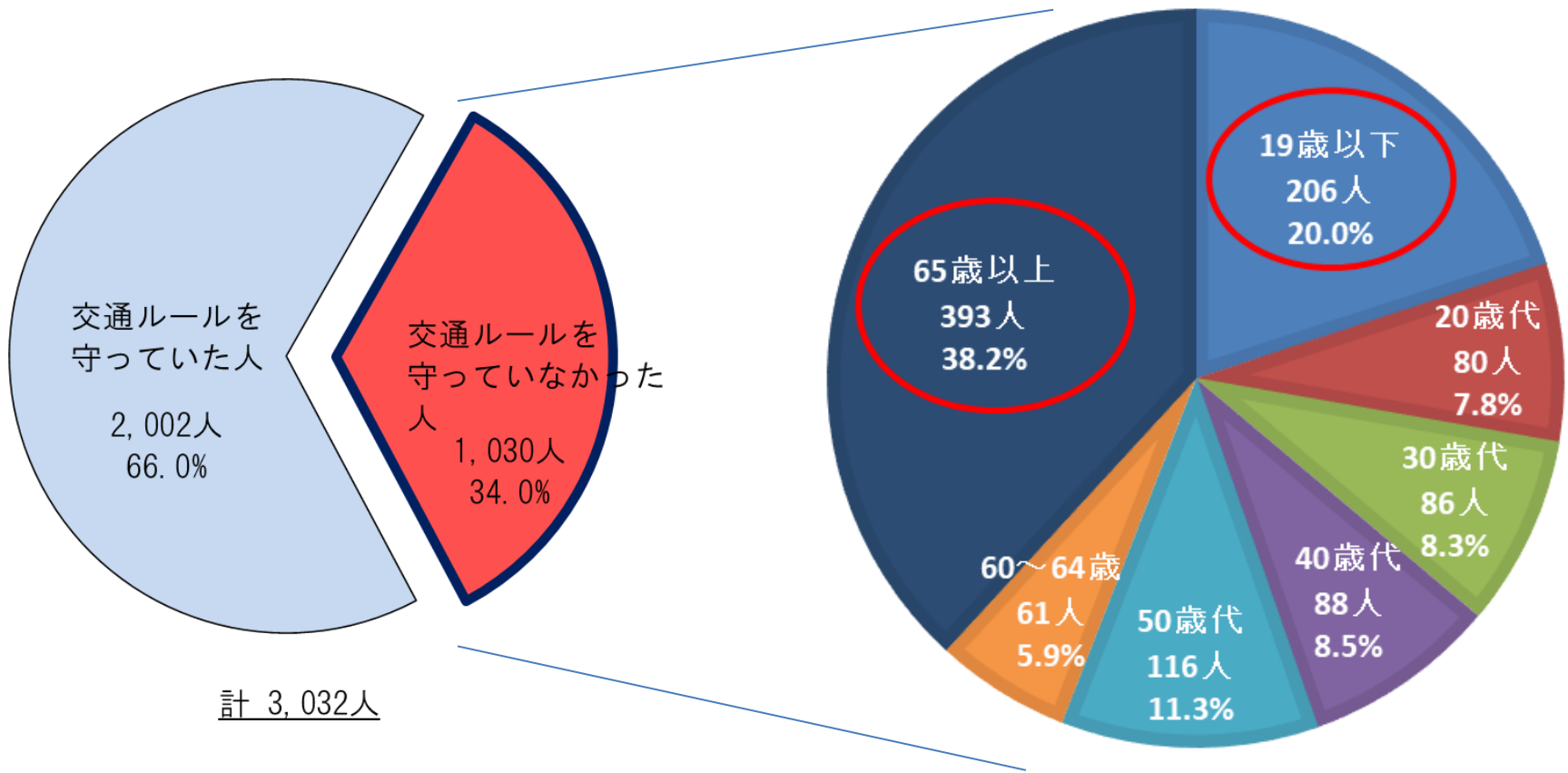
■シートベルト未着用者による交通事故死傷者数の推移



12 歩行中の交通事故死傷者の状況①

交通ルールを守らずに死傷した歩行者のうち、高齢者（約4割）や19歳以下（2割）が多くを占めている。

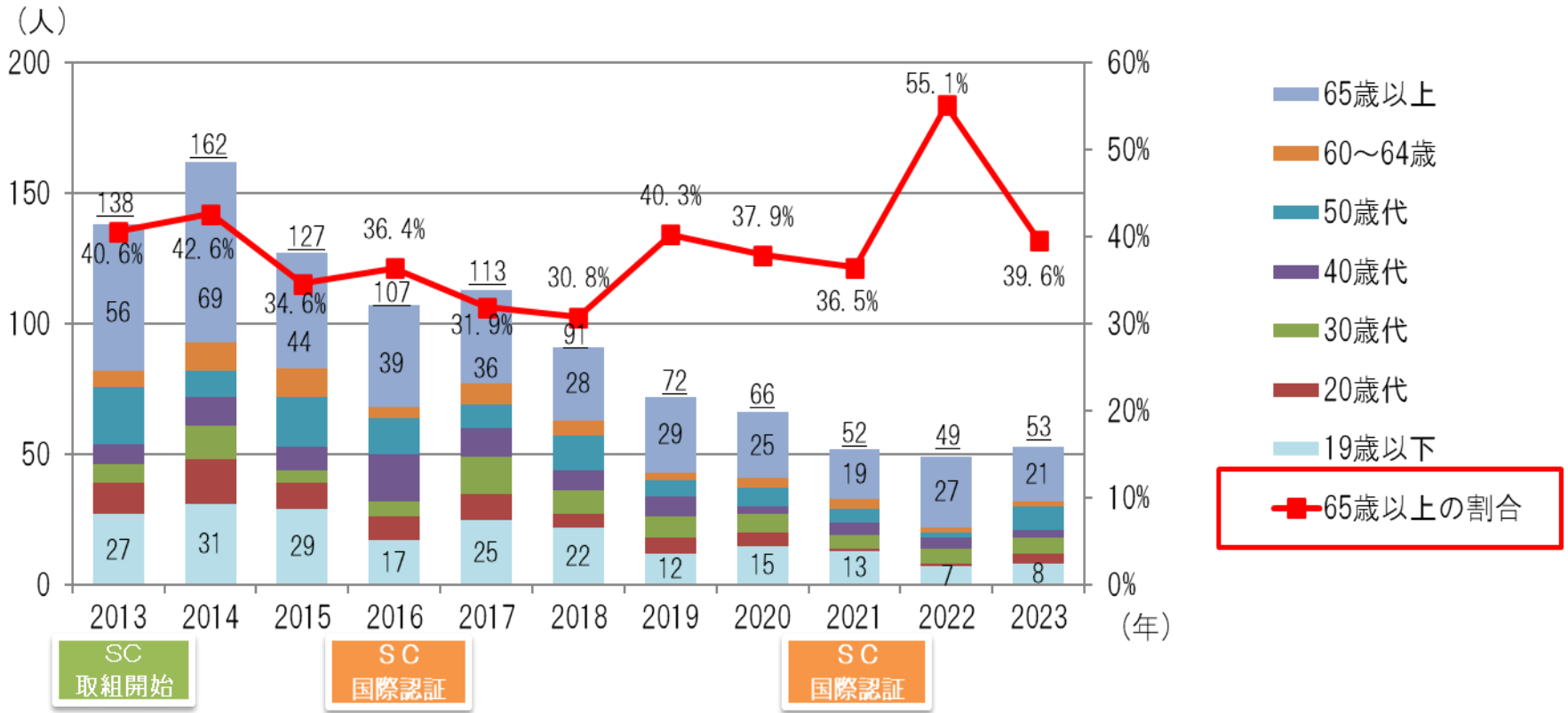
■ 歩行中の交通事故死傷者数の推移



12 歩行中の交通事故死傷者の状況②

歩行中の交通事故死傷者のうち、交通ルールを守らないで死傷した数は、減少傾向にあるが、2023年は65歳以上が、約4割であった。

■ 歩行中の交通事故死傷者のうち、交通ルールを守らないで死傷した数



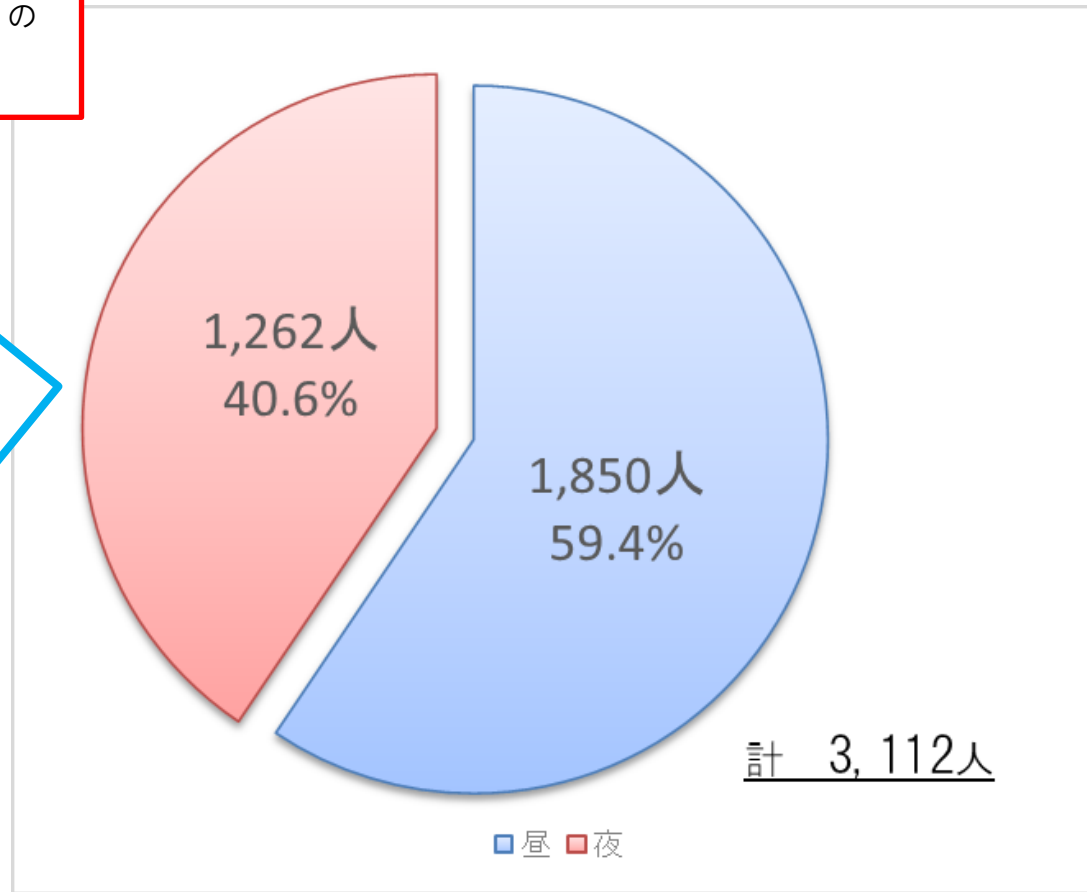
13 歩行中の交通事故死傷者数と夜光反射材着用率

歩行中の交通事故死傷者は夜間が約4割を占め、うち高齢者が多く、その大部分が夜光反射材を着用せずに事故に遭っている。

夜間の交通事故死傷者（歩行中）の
約98%が、反射材非着用

反射材非着用者
1,234人

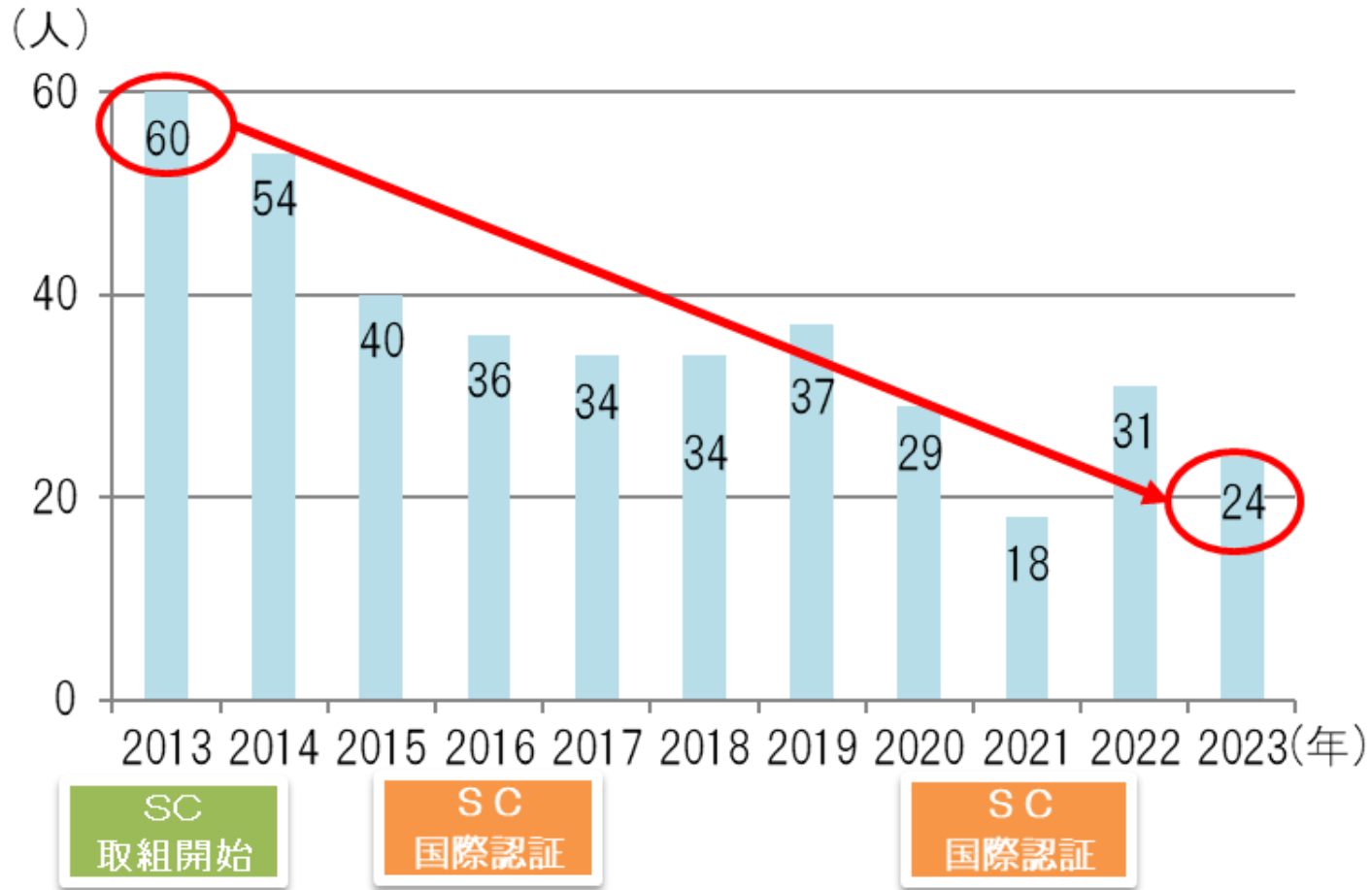
19歳以下	100人
20歳代	172人
30歳代	160人
40歳代	166人
50歳代	177人
60～64歳	77人
65歳以上	382人



14 夜間における歩行中の交通事故死傷者数（65歳以上）の推移

夜間における歩行中の交通事故死傷者数（65歳以上）は、2013年以降減少傾向にある。

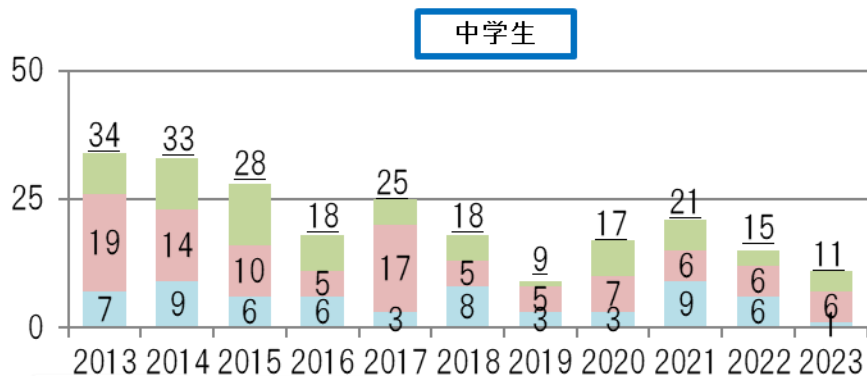
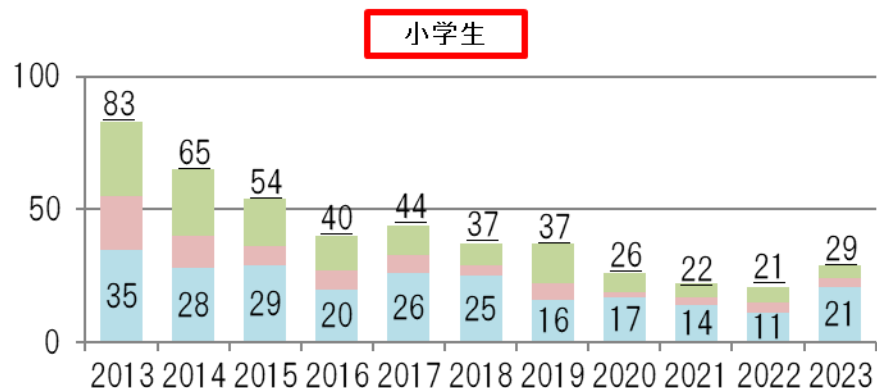
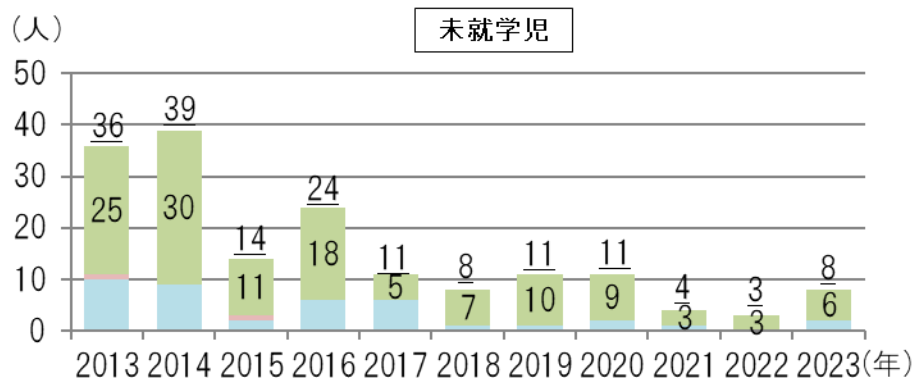
■ 夜間における歩行中の交通事故死傷者数の推移



15 学齡別・交通事故状態別（死傷者）の発生状況

小学生は「歩行中」、中学生は「自転車乗車中」に死傷するケースが多い傾向にある。

■学齡別・交通事故死傷者数（状態別）の推移



SC
取組開始

SC
国際認証

SC
国際認証

車両同乗中

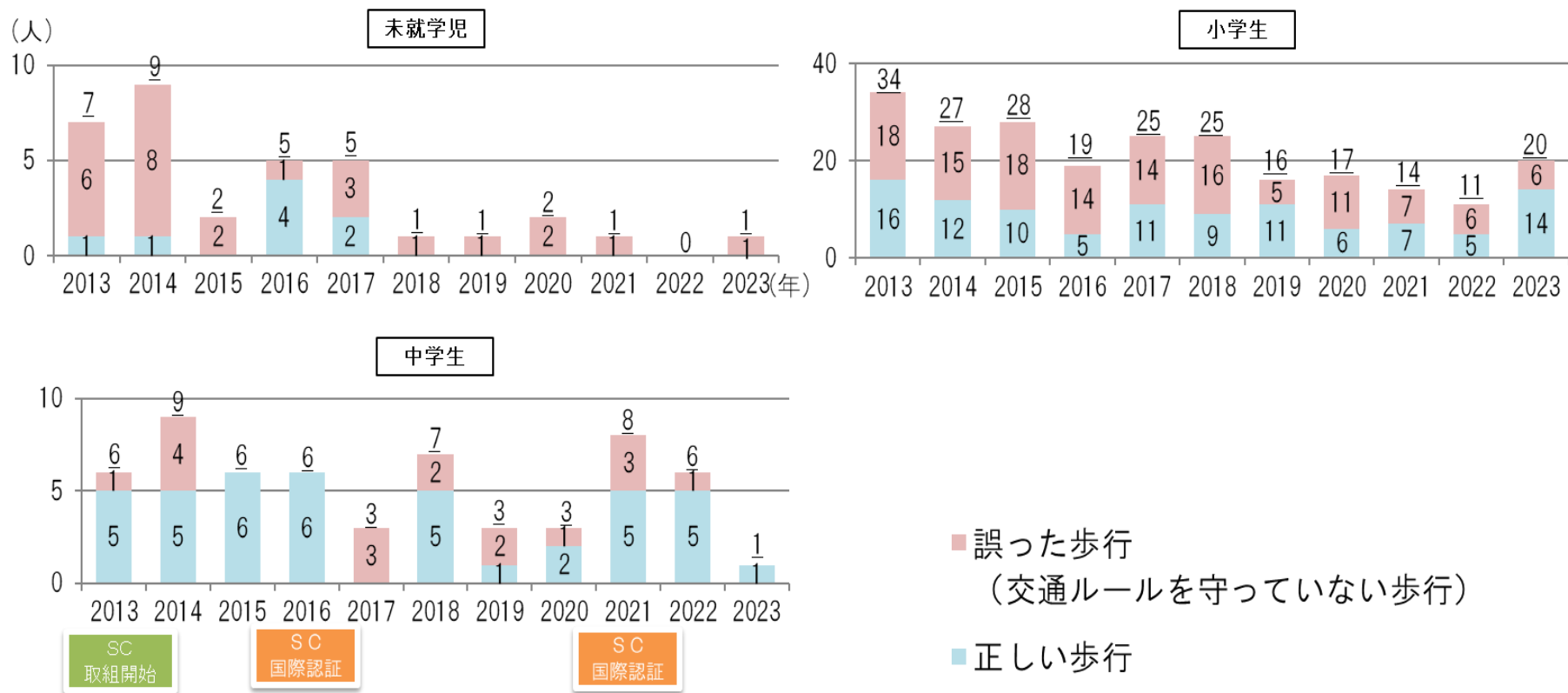
自転車乗車中

歩行中

16 学齡別における歩行中の交通事故死傷者の状況

歩行中の交通事故死傷者は、小学生以下では誤った歩行の割合が高い傾向にある。

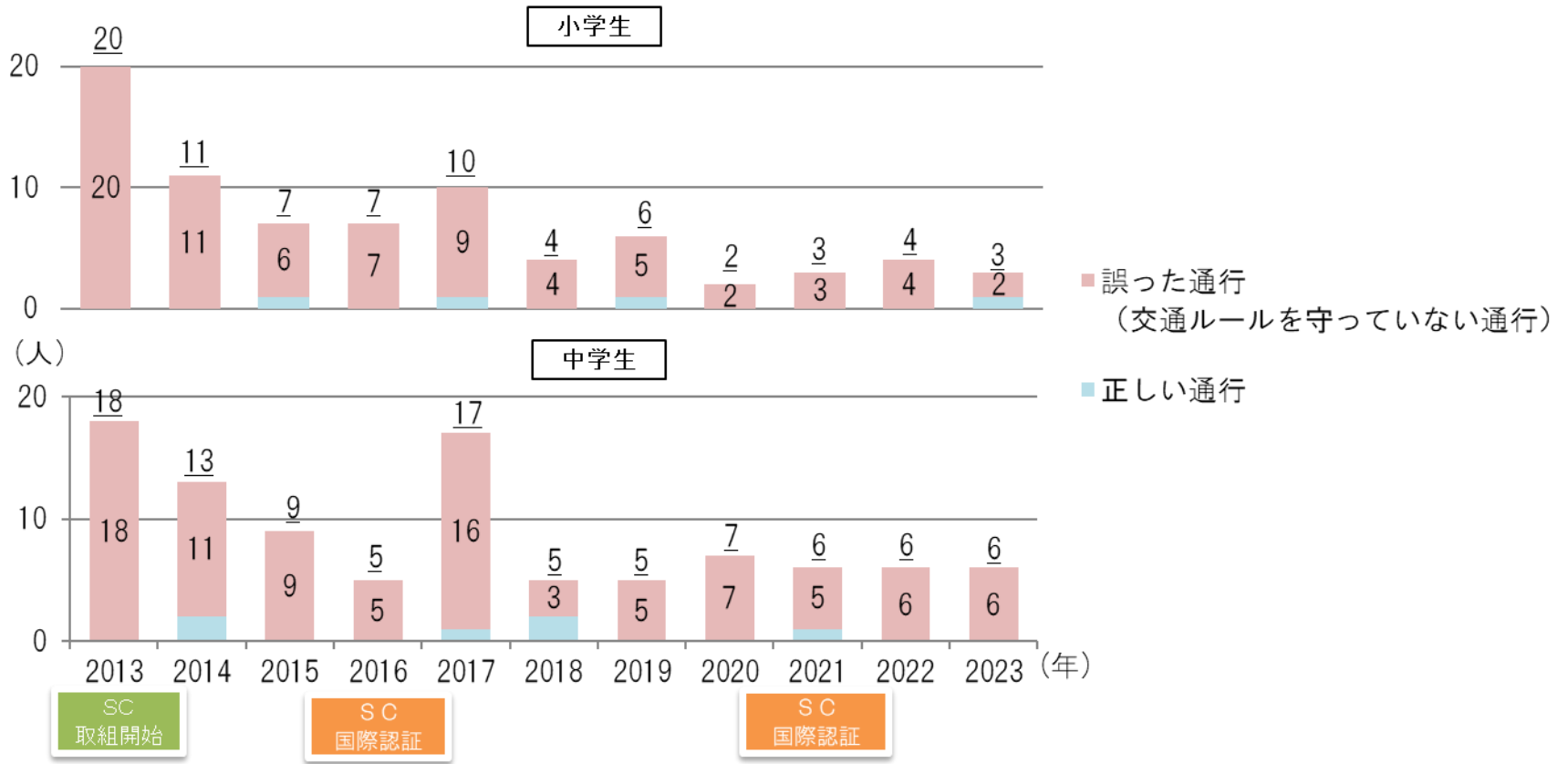
■学齡別における歩行中の交通事故死傷者の推移



17 学齢別における自転車乗車中の交通事故死傷者の状況

誤った通行による交通事故死傷者は、小学生・中学生ともに減少傾向にあるものの、大部分の死傷者が、誤った通行によるものであった。

■学齢別における自転車乗車中の交通事故死傷者の推移



18 学齢別における交通事故死傷者の自転車乗車中のヘルメット着用状況

自転車乗車中の交通事故死傷者は、高校生が多く、その大部分が誤った乗車によるもので、9割近くがヘルメット非着用である。

■自転車乗車中の事故による学齢別死傷者、ヘルメット着用の状況

